



下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 6. 18

下水道機構の『新技術情報』 第50号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>



台風第4号の動きが気になる週明けです。ネットなどで台風情報を見ると、台風には名称があります。今回の第4号の名称は、Guchol (グチョル)。ミクロネシアの言葉で「うこん」を意味するそうです。グチョルは、日本列島を縦断する可能性があるとのことですので、今後の台風情報に注意して台風対策をしっかりと！気を付けてお過ごしください。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第50号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

■□■□トピックス■□■□■

★インフォメーション

・6月11日(月)、関東地方整備局建政部都市整備課主催の「関東地整管内下水道長寿命化計画(管渠)策定勉強会」において、下水道機構から「緊急輸送道路下のカメラ調査の質向上新技術」について発表を行いました

・6月14日(木)、「横浜市における下水処理施設等の計画的な修繕・改築への取り組み」をテーマに技術サロンを開催しました！

★機構の動き

・今週は、特に行事はありません

★Tea Break

・あなたのクールビズは？ (ペンネーム 体脂肪率30%超え さんからの投稿です)

★【新コーナー♪】まる子のゆいまーる

・研究第一部 Y.A さんからの「しあわせ報告」！

★国からの情報

・6月14日 付け下水道ホットインフォメーション

-----  
インフォメーション (最新の話です)  
-----

●6月11日(月)に関東地方整備局建政部都市整備課主催の「関東地整管内下水道長寿命化計画(管渠)策定勉強会」において、下水道機構から「緊急輸送道路下のカメラ調査の質向上新技術」について発表を行いました。

勉強会の出席者数は、定員100名のところを320名の申し込みがあり、急遽会場を500名収容できる講堂に変更するなど下水道長寿命化計画への関心の高さが伺える状況でした。まず、関東地整の鴨下水道調整官の挨拶からはじまり、次に本省樽井環境調整係長より「下水道施設のストックマネジメント手法に関する手引き(案)」の説明、日本下水道協会片桐参事より「管きよ更生工法における設計・施工管理ガイドライン」、三つの自

治体から下水道長寿命化計画（管渠）策定事例発表がありました。そして、当機構からは「緊急輸送道路下のカメラ調査の質向上新技術」と題し、「衝撃弾性波検査法」の活用事例と「下水道用マンホールふたの計画的な維持管理と改築に関する技術マニュアル」について発表を行いました。関東地整の下水道係長から、マンホールふたの長寿命化は、タイムリーな話題であり、長寿命化計画策定にマンホールふたのマニュアルを活用するようにとの言葉をいただきました。最後に関東地整の黒沼下水道係長より「長寿命化計画策定に当たってのポイント」の説明がありました。13時から始まり16時45分までの長丁場でしたが、内容が豊富だったこともあり、時間の長さを感じさせない勉強会でした。

●6月14日(木)、「横浜市における下水処理施設等の計画的な修繕・改築への取り組み」をテーマに技術サロンを開催しました！

今回のゲストは、横浜市環境創造局下水道施設部の下水道施設整備課長の折居良一郎様及び下水道設備課長の小原明様のお二人でした。老朽化施設の増加に伴い、下水道施設の改築更新はますます重要な課題となっています。このような中、計画的な修繕・改築を進められている横浜市の取り組みについてご紹介いただき、参加者との意見交換が行われました。今回は参加者が非常に多く、椅子のみの配席となりました。

講演では、折居課長様からは土木・建築施設についての取り組みを、小原課長様からは設備についての取り組みをご紹介いただきました。主な内容は、横浜市の水再生センターの施設・設備の概要に始まり、施設では計画的な改築・点検調査と調査・工事の事例の紹介、設備では横浜市のマニュアルに基づく更新と今後の見込み等についてでした。その中で、横浜市では急速な整備により老朽化もハイペースで進んでおり、今後、点検調査も含む長期改築計画の策定や調査・工事履歴も含む情報データベースを作成する予定であることが紹介されました。また、設備では約100億円規模の事業費で長寿命化計画も作成して、下水道設備改築マニュアルに基づく設備更新等を行っていく考え方が紹介されました。意見交換では、維持管理との調整が同じ部なので緊密に行われていること、管渠も合わせて、平準化しながら事業を進めていく考えが示されました。

さて、次回技術サロンは7月12日木曜日の17:00から。ゲストには川崎市上下水道局下水道部の下水道計画課長の松川一貴様をお迎えして、「川崎市における平成24年度下水道事業の展開」をテーマに当機構会議室（東京・江戸川橋）にて開催します。皆様多数のご参加をお待ちしております！参加申し込みは機構ホームページから。

→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-306.htm>

※5月の技術サロン、国総研下水道研究室の横田室長の資料を専用サイト登録者のページに掲載しました。登録者は、これまでのサロンの資料がご覧いただけます

公共団体等の方はこちら → <https://www.jiwet.jp/members/gov/>

出捐団体等の方はこちら → <https://www.jiwet.jp/members/support/>

---

機構の動き （機構の行事予定です）

---

●6月26日(火)10:00～12:00(下水道機構8階 特別会議室)

第46回 理事会

●6月27日(水)10:00～12:00(下水道機構8階 特別会議室)

第36回 評議員会

●6月29日(木)13:00~17:30(下水道機構8階 特別会議室)

第1回 審査証明委員会

---

Tea Break (機構職員の感じるまま)

---

●あなたのクールビズは？ (ペンネーム 体脂肪率30%超え さんからの投稿です)

そろそろ夏本番ですが下水道機構では5月からノーネクタイを実施しています。

ネクタイの起源はというと、ギリシャ神話に由来するという説やルイ13世を守るためにクロアチアの兵士がフランスを訪れた際、彼らの無事な帰還を祈って妻や恋人から贈られたスカーフを首に巻いたことから広まったという説、クロアチアの兵士が防寒のため羊毛で作った「マフラー」のようなものが装飾的に華美な進化を遂げたとする説など諸説あり定かではありませんが、我が国で初めてネクタイを日本に持ち込んだのは、幕末にアメリカから帰国したジョン万次郎とされています。彼が1851年(嘉永4年)に帰国した際、薩摩藩や長崎奉行所で入国の取り調べを受けた時の所持品にピストル、羅針盤などにまじって『白鹿襟飾』と記録されたものがあり、これがネクタイのことではないかと考えられています。

ネクタイの話はここまでとし、ノーネクタイに加え、暑い夏に体温を下げるためには、首筋や脇を冷やすと効果があるようです。首筋や脇部分には、比較的太い動脈があるからです。この部位を直接冷やすことは、体温低下に大変効果があることがわかっています。最近、首まわりを冷やすグッズが売れているようですが、みなさんは、今夏どのようにクールビズされますか？

---

まる子のゆいまーる (皆様との交流の場です♪)

---

●今回は、機構研究第一部 Y.A さんから『しあわせ報告』がありましたので、ご紹介します♪

☆

Congratulations

---

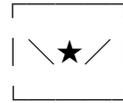
私事ですが、6月17日に入籍いたしました。機構へ出向期間中に結婚することは全く予想していませんでしたが、出向元だけではなく出向先からもたくさんの方に祝福をしていただく形になり、今回のご縁にはとても感謝している次第です。

私は今年30歳になりますが、最近では既婚・未婚によらず同年代の男友達の間で人間観察をしています。と言いますのは、私はどちらかと言うとまだ地面にしっかり足がついておらず、根なし草のようにフラフラしている面があり、それをとてもよく『自覚』しているつもりです。ですので、『あいつは自分より大人だ』、『あいつは自分より子供だ』という視点から人間観察をしていたのですが、どうやら自分はまだまだ未熟だということだけが分かりました。

結婚生活とは楽しいことだけではなく辛いこともあり、人が成長する過程でとても大切なものだとはよくお聞きします。まだまだみなさんにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、家庭を築いていく中で少しずつ少しずつ成長していく所存ですので、今後どうぞよろしく願いいたします。

Y.A さん、末永くお幸せに！

提供はこちらまで→



jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則 400 字以内。写真等はA 4 版にして原則 2 ページ以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。



下水道ホットインフォメーション（2012.6.14 付、国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 吉澤正宏



本日、土木学会の総会において、元土木研究所水循環研究グループ水質チーム上席研究員で、現在、京都大学大学院教授でいらっしゃいます、田中宏明先生が「水環境における新規汚染物質の存在実態、影響評価、削減対策に関する研究」で土木学会賞（研究業績賞）を受賞されました。おめでとうございます。

先生のご研究は、現地調査と室内実験の両面のアプローチから、水環境における新規汚染物質として懸念されている医薬品類の存在実態、影響評価、削減対策に関する研究を先導するとともに体系化することにより、健全な水環境の復元に大きな役割を果たすと高く評価され、研究業績賞に輝かれたものです。今回初めて環境関係の分野から受賞されたとのこと。先生からは、これからも下水道分野を支援する研究を行いますとの心強いコメントもいただきました。ありがとうございます。重ねて、おめでとうございます。

さて、今号の4月1日人事異動による下水道部の新しいメンバーからのコメントは、平野係長（下水道事業課）と川戸研修員（下水道事業課）です。

4月から下水道事業課総務係長に着任しました平野と申します。3月までは関東地方整備局で広域地方計画関係の業務に携わっていました。下水道事業課には、平成15年、16年と予算係に在籍させていただいたことがあり、当時は汚水処理交付金創設に向け、他省庁との調整や係数作業を担当させていただいたことが、いい思い出となっております。今回は総務係長ということで、事業課及び流域管理官の皆様が元気に明るく楽しみながら業務に邁進できるよう、縁の下の力持ちとしてがんばってまいります。よろしくお願いいたします。

4月より下水道事業課に研修員としてお世話になっています川戸と申します。「車の町」愛知県豊田市より赴任しました。地元豊田市では野球部に所属し、野球の試合のため既に何度か帰省し、今年度は念願の全国大会出場を決めました。9月の大会へ

の出場を密かに目論んでおりますが、J補佐からは「出場の可否は仕事の出来次第！！」とお尻をたたかれております…。職場の皆様には、かわいがっていただき大変光栄に思っております。仕事についてあまり触れておりませんが、下水道の発展のため日々励みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○「下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第2版]」(英語版)を公開しました【流域管理官】

●「JS 技術開発基本計画 (3次計画)」を策定【日本下水道事業団】

●新技術として5技術を選定【日本下水道事業団】

=====

○「下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第2版]」(英語版)を公開しました【流域管理官】

国土交通省では平成21年度に膜技術の下水処理への利用促進のため、「日本版次世代 MBR 技術展開プロジェクト (A-JUMP)」を実施しました。同プロジェクトでは「既設下水処理施設の改築における膜分離活性汚泥法適用化実証事業」及び「膜分離活性汚泥法を用いたサテライト処理適用化実証事業」を行い、処理場の改築更新及びサテライト処理への MBR の適用性等を実証しました。

下水道膜処理技術会議ではこれらの実証事業や研究開発の成果、国内外における最新の知見をもとに、特に維持管理情報とコスト情報を充実させ、「下水道への膜処理技術導入のためのガイドライン [第2版]」として取りまとめています。

この度、海外に向けてもこれまでの検討成果を発信していくため、同ガイドラインの英訳版を作成しました。海外における MBR の普及促進等にご活用いただければ幸いです。

[http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo\\_sewerage\\_tk\\_000209.html](http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000209.html)

●「JS 技術開発基本計画 (3次計画)」を策定【日本下水道事業団】

このたび、日本下水道事業団 (JS) は「JS 技術開発基本計画 (3次計画)」を策定しました。本計画は、平成24年4月に発表された「JS 第4次中期経営計画」における JS の技術開発の方向性に基づき、技術開発にとどまらず、実用化、プロジェクトへの導入に至るまでを視野にいれ、中期経営計画の達成を目指すものとなっています。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.jswa.go.jp/kisya/h24pdf/240613kisy1.pdf>

●新技術として5技術を選定【日本下水道事業団】

日本下水道事業団 (JS) では、受託建設事業に新技術を積極的に導入するため、昨年度、新技術導入制度を創設いたしました。このたび、JS が開発した水処理に係る2技術と、民間企業等において開発された汚泥焼却炉に係る3技術を、新技術として選定しました。

<今回選定した技術>

- ・新技術1(表記:ローマ数字の1)類 (JS が共同研究等により開発に関与した技術)  
アナモックス反応を利用した窒素除去技術

開発者：JS、大阪市、株式会社タクマ、株式会社日立プラントテクノロジー、  
メタウォーター株式会社

高速吸着剤を利用したリン除去・回収技術

開発者：JS・旭化成ケミカルズ株式会社

・新技術 2(表記:ローマ数字の 2)類 (開発に公的機関が関与し、JS の技術確認を経たもの)  
多層燃焼流動炉

開発者：東京都下水道局・メタウォーター株式会社

過給式流動燃焼システム

開発者：独立行政法人土木研究所・独立行政法人産業技術総合研究所・  
月島機械株式会社・三機工業株式会社

・新技術 3(ローマ数字の 3)類 (上記以外の技術で、JS の技術確認を経たもの)  
高効率二段燃焼焼却炉

開発者：株式会社神鋼環境ソリューション

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.jswa.go.jp/kisya/h24pdf/240613kisya2.pdf>

=====

【参考情報】

◆危機管理センター基本原案を公表／高松市 <6/7 四国新聞>

[http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa\\_news/administration/20120607000168](http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/administration/20120607000168)

◆道路冠水・集中豪雨体験:「50ミリ」危険を実感 中学生、災害に備え 相生・  
矢野川中 /兵庫 <6/7 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/hyogo/news/20120607ddlk28100502000c.html>

◆ごみ処理施設など運転停止して節電／高松市 <6/8 四国新聞>

[http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa\\_news/administration/20120608000172](http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/administration/20120608000172)

◆豪雨想定、防災訓練 岐阜 <6/8 朝日新聞>

[http://mytown.asahi.com/gifu/news.php?k\\_id=22000001206080002](http://mytown.asahi.com/gifu/news.php?k_id=22000001206080002)

◆下水処理場で「ホタル鑑賞会」 大分 <6/12 朝日新聞>

[http://mytown.asahi.com/oita/news.php?k\\_id=45000001206120002](http://mytown.asahi.com/oita/news.php?k_id=45000001206120002)

◆下水処理場で小水力発電・・・高岡 <6/14 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/toyama/news/20120613-OYT8T01533.htm>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/>

○コラムの正解はこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/seikai2.pdf>

